

島根半島・宍道湖中海ジオパークの視察

生物多様性研究分科会 平井 久美子

1. はじめに

生物多様性研究分科会では、令和4年度より『島根半島・宍道湖中海ジオパーク』をテーマとして活動を行っている。今年度は、午前に加賀地区（島根半島エリア）、午後から川原地区（出雲平野・宍道湖・中海低地帯エリア）を視察した。加賀地区では、「松江ビジターセンター」の視察および「加賀の潜戸遊覧船」で海食洞の視察をし、川原地区では、「嵩山ハイキング」にて、山頂からジオパークを視察する予定であった。

「加賀の潜戸遊覧船」の乗船は、昨年度強風により欠航となったため、今年度は1カ月半時期を早めてのリベンジ企画であった。しかしながら、今年度も晴天にもかかわらず波浪が高く欠航となったため、予定を変更してジオパーク専門員より島根半島・宍道湖中海ジオパークの成り立ちや歴史などの説明会をして頂くこととなった。本投稿では、加賀地区および川原地区での活動内容について報告する。



図-1 島根半島・宍道湖中海ジオパークのエリアと各地区の概要

表-1 島根半島・宍道湖中海ジオパークの視察

日 時	令和6年9月23日（月祝）10：30～15：00
参加者	吾郷秀雄、余村仁、吉田薫（午前のみ）、大嶋辰也他2名（午前のみ）、北村清、吉田進、松井亨、武田真砂子、長岡身奈子、平井久美子以上12名
場 所	松江ビジターセンター、嵩山
内 容	10:30～11:45 「加賀地区」松江ビジターセンター説明会及び視察 11:45～12:30 昼食 13:00～15:00 「川原地区」嵩山ハイキング

2. 「加賀地区」松江ビクターセンター説明会及び視察

説明会では、ジオパーク専門員で島根大学名誉教授である野村律夫先生に、島根半島・宍道湖中海の地形や生態系が形成された歴史を説明して頂いた。2500 万年前に大陸から分裂し、1500 万年前に日本列島・島根半島が現在の位置となり、以降中国山地からの土砂が堆積し 5～6000 年前頃に現在の出雲平野・松江平野・宍道湖・中海が形成され、豊かな自然と多様な生態系があることを教えて頂いた。島根半島は、「国引き神話」として風土記の世界（出雲国風土記）と繋がっている、日本で唯一の場所であることなど面白いお話を聞くことができた。

また、ジオパークの見どころとなる魅力的なジオサイト（桂島・唯浦の直立層・地蔵崎・惣津海岸と明島・多古の石柱・小伊津海岸の洗濯岩・日御碕・十六島鼻の海食崖・稲佐の浜・須々海海岸の洗濯岩）をドローン映像で鑑賞した。それぞれのジオサイトは大規模な地殻変動を経ているため、ダイナミックな断層や褶曲などの地形・地質が豊富で、全く違う表情の綺麗な景色となり興味深かった。この動画は、「島根半島・宍道湖中海ジオパークホームページ」（<https://kunibiki-geopark.jp/geopark-video/>）でも視聴できる。

	
野村律夫先生の説明	ドローン映像鑑賞
	
ビクターセンター展示物	
	
晴天にもかかわらず欠航	サザエご飯定食（昼食）

写真1 松江ビクターセンターでの状況

3. 「川原地区」嵩山ハイキング

午後からは、吉田進技術士の案内のもと、松江市内にある嵩山のハイキングを行い、山頂からジオパーク（宍道湖中海低地帯エリア）を視察した。



島根半島・宍道湖中海ジオパークマスタープラン

図-2 嵩山位置図



地理院地図

図-3 嵩山ハイキングコース

嵩山（標高 331m）は、出雲平野・宍道湖・中海低地帯エリア（松江市上東川津町）の松江市東部に位置し、東側に中海、西側に宍道湖、北側は島根半島北山連山に囲まれた「出雲国風土記」の記録にも残っている出雲五峰のひとつである。山頂には布自伎弥神社があり、登山道入口の駐車場から山頂まで高低差 221m、距離は片道 1.8km のハイキングコースとなっている。

登山道は整備されているが、想像より急な斜面で赤褐色の粘土（安山岩）が露出し、前日の雨で滑りやすくなっていた。1 時間程度登り、疲れが溜まってきたころ一気に目の前が明るくなって山頂に到着した。山頂では、大根島や中海が一望できる綺麗な眺めが広がり皆から歓声が上がっていた。少し霞がかっていたが、江島大橋も見ることができた。珍しい草花や鳥の声が聞こえていたが、足元を確認しながら登山をするのが精一杯だった。地区ごとの植生の特徴を把握することができれば、よりジオパークの魅力を深掘りできるのではないかと感じた。

		
登山道入口	登山道	山頂で記念写真
		
布自伎美神社	山頂から大根島方面	山頂から宍道湖方面

写真-2 嵩山ハイキングの状況

4. おわりに

今年度は、島根半島・宍道湖中海ジオパークのうち、「加賀地区」「川原地区」の魅力について視察したが、松江ビジターセンターの説明会でまだまだ多くの魅力ある地区があることがわかった。来年度以降も当研究分科会では、引きつづきその他地区の自然観察会を続けて行けるとよいのではないかと考えている。その地区の魅力を知り、体感することが目的であるが、島根県技術士会員相互の親睦も大事な目的のひとつだと考えられるため、専門分野等の垣根なく、多くの会員の方が参加できる楽しい企画が開催できればよいのではないかと感じている。

最後になりますが、今回快く案内して頂いた野村律夫先生に改めて謝辞を申し上げます。

追伸) 2025 年秋から NHK の連続テレビ小説「ばけばけ」が放送されます。このドラマは、小泉八雲＝ラフカディオ・ハーンの子の「小泉セツ」がモデルになっています。小泉八雲は、宍道湖の落日、松江城、加賀潜戸、美保関青石畳通り、日御碕海岸など風土記の時代から残る風景の魅力を詩情豊かに、幻想的に著書で語りました。これらの風景は、島根半島・宍道湖中海ジオパークの代表的なジオサイトとも重なっているため、ジオツアーを通じて、小泉八雲の足跡を辿ることができます。よって、来年度は島根県への観光客が増え、「加賀の潜戸遊覧船」の人気が出て乗れなくなるのではないかとお聞きしたため、11 月の天気の良い日に勉強のため一足先に下見をしに行き写真を撮りましたので載せおきます。来年度こそは、晴天・風に恵まれて、研究分科会で皆さんと遊覧船での視察ができればよいと思います。



加賀の潜戸遊覧船 HP より

図-4 加賀の潜戸遊覧船 遊覧コース

		
旧潜戸入口付近	新潜戸入口付近	新潜戸内 (船頭さんの腕の見せ所)

写真-3 遊覧船からの風景 (おまけ)